
メイド桃亜の非常識な日常

真黒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メイド桃亜の非常識な日常

【Nコード】

N8300C

【作者名】

真黒

【あらすじ】

一般庶民の俺の家に、そいつは突然やって来た。何だと思う？メイドが来たんだよ！俺、宮間里一と非常識系メイド桃亜の非常識な日常のコメディーです！*ブログにて、番外編公開中です！作者紹介ページよりどうぞ。*更新予定日は毎週月曜日です（あくまで予定）。

ブローグ

最初に言っておくが、俺はただの高校生男子だ。

親父とお袋は数年前に事故で死んじまって、両親の残した遺産と保険金、それから時給800円のバイトの給料で食っていくのが精一杯だが、それ以外はごくごく普通の17歳だ。

裕福なんてわけでもねえし、特に不思議能力もない。

日々坦々と高校生活を送っている、どこにでもいるような高校生だ。

だがな、そんな俺の家にやって来たんだ、そいつは。

何だと思う？

来たんだよ！メイドが・・・

第1話 桃亜が来た

その日、俺はやつと終わったバイトから帰ってきたばかりで、とても疲れていた。

まさか、家の前にそんなのがあるなんて、

いや、一応“いる”としておこうか。

まあとにかくそれは家の前にいたんだ。

さて、本題に入る前に少し知っておいてもらいたいことがあるんでね。

先にそちらから行こうか。

プロフィールでも少し言ってるが、俺は一人暮らし。

両親は自動車事故で五年ぐらい前に死んでいる。

家は可もなく不可もなくって感じの一戸建て（ローンは保険金で返したが）。

あとはわずかなる財産と安いバイト代で細々と暮らしている。

まあ寝るとこだけには困らねえのが救いだかな。

「あーだりかっただりかった・・・」

俺はそんな独り言をつぶやきつつカバンから鍵を取り出し門を開け・

・

「おおぅ！？」

そりゃ、ドアの前にメイド装束まとった女の子がいたら誰でも驚くわな。

しかもお休み中ときた。大きなボストンバッグを枕にして。

おい、俺、落ち着け。

焦っていても何も進まないな。

よく観察する。変態じゃねえか俺。

まあ場合が場合だ、しょうがねえか。
さてと。

もしこれが5、6歳ぐらいの少女なら、

『メイド服を着て遊んでいる途中で迷子になり、さ迷い歩いたた末、
ここに来てしまった』

と、考えられなくもないこともないこともないのだが・

・
あきらか同年代なのである。（しかも結構美人という、ね）
どうしようか。

つつーかドアにもたれかかって寝とるから開けられねえし。

起こさねば。

「おい、起きろ」

軽くゆする。

起きねえ。

「おい、起きろつて。つつーか人んちの玄関で寝るな、メイド装束。

」

「もが？」

何とも言えない奇声を発しつつ、メイド女は目を開けた。

「はわっ！はわわっ！？」

それから跳ね上がった、メイド服についたほこりを掃った。

「みやまりいち宮間里一君、ですか？」

あん？

いや、たしかにそうなのだが・・・

「何故に知る？」

「あー・・・話したら長いんですけど・・・」

そう言うともメイド装束はチラリとドアを見た。

ああ、中に入れろつてか。

「入れるか変態！名乗れよ！」

「あ、ももあひ桃亜つていいいます。」

「どっから来た。何で俺の名前を知ってる？そんな正体のわからね

え奴を家に入れるほど不用心でもないんでね。」

桃亜、というらしい女はしばらく宙を見ていたが、

「あなたのお父上の知り合いのもの、って言えば入れてくれますか？」

と言った。

何だと？

親父は五年前に交通事故で・・・

それに普通のサラリーマンだったぞ。

メイド服の知り合いがいるなんて聞いてねえ。

「おい」

俺は鍵を開けた。

「入れ。詳しく聞かせる。」

女は嬉しそうな顔をした。

しゃーねえ。

まあこれが俺と桃亜の出会いだったわけであるが。

まさかこんなことになるとはね。

思ってもみなかったのさ、そんときの俺は。

第1話 桃亜が来た（後書き）

えと、がんばりますんでよろしく．．

第2話 桃亜がここにいる訳（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

第2話 桃亜がここにいる訳

と、いうわけで、家（居間んところ）にはメイド女と俺が無言で向かい合っている。

はたから見りゃあ相当おかしい風景だろうね。

「おい」

「何でしょうか」

メイド女は（俺の入れた）緑茶をすすった。

「親父と何の関係があんだよ。」

「長くなりますけどいいですかね？」

「ああ。なんでもいいから早く言え。」

メイド女、桃亜はまた緑茶をすすった。

早く言え。

「私はあなたのお父上の親戚の友達、あれ、友達の親戚だっけな？」

どっちでもいい

！

「まあ親戚の友達ということにしておきましょう。

で、親戚の友達の娘なのですが、お父様がその親戚のかたに100

0万ほど借金をしてしまってますね・・・」

えーと、親戚の友達の親戚？

「あ、私から見れば、お父様の友達ですね。」

なるほどね。

たとえば俺のおじさんが（たとえば、だぞー）その友達Aに金を貸したと。んでAの娘がこいつってわけか。

「しかしその親戚のかたは財産もあまりなく、破産しそうになり、あなたのお父上に同じだけ借金をして・・・」

「つまり俺の親父がお前の親父に金を貸したと同じになった、ってことか」

「まあ、そういうことですね。」

「んで、どうしてお前がここに？」

「働いて返せとお父様が」

娘に押しつけんな
！

・・・さつきから疑問に思っていたのは俺だけか？

「何故にメイド？」

「お父様の趣味、ですな」

・・・おい、お前の父親大丈夫かよ・・・

つつーか、

「いやだし、雇うの」

「いや、私帰るとこないんですよ。」

「えっ・・・？」

それって・・・追い出されたとか・・・？（白雪姫的な）

「お父様が、私が荷物を持って出て行ったあと、『食費が浮く』って言うてましたから」

サイターの父親キタ
（、）
！！

たしかにそれはかわいそう、かも・・・

ま、いいか。

なんか起こってから心配すれば。（こんな楽観的でもいいのか、俺！）

「まあ働くなら置いてやっても・・・」

「マジ！？マジですか！？やったぜ
！」

・・・はいはい。

大丈夫なんだろうかね、俺。

さて、前にも言ったと思うが、こいつは俺と同年・・・俺は高校生。

こいつ・・・

「学校は？」

「行つてない？」

なぜ疑問形？

「行かないでいいのか？」

「あんま良くないんじゃないですか？はは」

・・・こいつも俺と同じ、樂觀主義らしいな・・・

・・・

「どーしましょうかね？」

俺に聞くなああ！！

「そうだあ！YOUと同じとこに編入したらいいんですYO！」

誰だよ・・・

で・・・変に敬語使わなくていいからね・・・

本人いわく「メイドですから」・・・

「あ、編入試験とかつてあるんじゃない？」

「私頭いいですし」

で、ほんとに頭良かったり良くなかったり・・・？

受かってましたけどね。

第2話 桃亜がここにいる訳（後書き）

読んでくれてありがとうございますッ！
評価してくれたらむっちゃ嬉しいです（、、、）

第3話 学校へ行こう！（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

第3話 学校へ行こう！

「おはよう・・・ってええ！？」

みんなの視線が痛いんですけどね・・・

まあ、俺を見てるんじゃないけど。

後ろのね・・・メイド装束をさ・・・

「郵便来てますよー」

桃亜とかいうメイド女がうちに居候（？）することになったのは言
ったはずだよな。

なんかいろいろあって・・・同じ高校に編入することになった？み
たいで。

「郵便？」

「はい。んーと・・・梅坂高校？」

うちの学校　　！

「学校から？」

「何でしようね？」

俺宛の手紙を勝手に開けんじゃね

って・・・紅田桃亜？（ふーん、本名知らなかった。）
こいつだともあ

こいつ宛かよ・・・

何々？合格通知・・・

ってことで、今に至る・・・んだが・・・

校長室までこいつを連れて行かなきゃならねーらしい。
めんどい。

つつーかハズい。

メイド服とかやめてくれよ　　！

里ーは（精神的な）300ダメージを受けた！！

さて、俺が校長室に行きたくない理由は、桃亜がいるだけではないんだよ。

「失礼します・・・校長、転校生連れてきました・・・」

現校長は亡き前校長・梅坂時宗つめざかとときむねの妻で、

「あつ、連れてきてくれたーん？ありがとっつ！」

関西人である。

そしてよく絡む。

「えっメイド服っ!？」

やっぱびつくりするよねー

「すごいやーん！彼女！？彼女！？メイドが彼女ー!？」

びつくりするとこ違う！

っーか違う！

「彼女じゃないです！ビアンカ校長!」

「ビアンカってカタカナで言うな！私は美杏華ビアンカや!」

校長、梅坂美杏華ビアンカ（30代前半ぐらい?）

金髪青目のフランス人。

好きな食べ物、たこ焼き、焼きそば、お好み焼き。

「何?よー見たらめっちゃ可愛いやん!この子」

まあ美人の部類には入るんじゃないか?桃亜は。

「お二人、どうゆう関係？」

殺意わくからニヤつきながら言うのやめてください。

「こいつはただの家事手伝い兼居候です」と俺。

「危ない関係?」と桃亜。って・・・

「なんでやね

んっ!」

おお。ついビアンカ校長の関西弁がうつってしまっただぜ・・・

ってか桃亜!

意味わからん!なぜそこで嘘をつく?

「あかん!ヘッドロックはあかんて!それはリアルに桃亜ちゃん死

ぬて！」

「・・・ぐがああ・・・」

ヘッドロックを知らない子はお父さんに聞いてみよう

「も、桃亜ちゃん！誰か、助けてくださ
い！」

校長、セ チュー知ってるんだ。

「ごめんなさい嘘つきました。」

「なんであんな嘘つきやがったあ？このメイド装束が！」

「その方がコメディー的に面白いかなって思っ・・・ぐあ！」

「まあまあ、宮間君そんな怒ったんなって。あつ、あかんでアイアンクローも！」

謎な光景シリーズ第二弾！（第一弾は二話の最初）

フローリングに正座するメイド服（桃亜）と、

それにプロレス技をかける男子高校生（俺）、

それを仲裁する金髪美女（校長）・・・

どう見えるんでしょうか？

「失礼しま・・・？」

あ、ちょうどそんな時に入ってきたのが・・・

「柊さん。待ってたんよ、入って入って！」

わがクラスの委員長、柊^{ひいらぎみあ}実亜である。

柊は桃亜を見て、校長を見て、俺を見て、

「お邪魔しました」

なんか誤解してない！？してるよね？絶対してるよね！？

「実亜ちゃん、この子（今しめられてるけど）、桃亜ちゃんっていうねん。実亜ちゃんのクラスに入るから面倒みたってな」

「・・・がんばってみます！」

・・・がんばってください。

学園コメディーなのに四話目（プロローグ+3）にしてやっとこさ
学校登場！

大丈夫か、作者！（大丈夫じゃない・・・）

第3話 学校へ行こう！（後書き）

がんばりましたよ！

テストの4日前だというのに・・・（勉強しろ
勉強します！

ので、水曜日まで更新できません・・・！

よろしければコメントお願いします（＊・人・＊）

第4話 学校へ行ってみた！（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。でも頭はいい。

第4話 学校へ行ってみた！

ちよつと考えてほしいことがある。

第三話でのことだ。

『わがクラスの委員長、ひいじぎみあ 柊実亜である。』

『実亜ちゃん、この子（今しめられてるけど）、桃亜ちゃんっていうねん。実亜ちゃんのクラスに入るから面倒みたってな』

この事から何かわかることはないだろうか。

柊実亜は俺のクラスの委員長。俺と柊は同クラス
そして、柊のクラスに桃亜が入る・・・

そう。

桃亜は俺と同じクラスなのだ・・・！

とまあ、そんなおぞましい事に気づいた俺は、なんとか出来るはずもなく、ただ教室の自席に座っていることしかままならなかった・・・

・（泣）

「リーチ！」

俺のあだ名である。

「んあ？ああ、信玄か。」

「シケた面してんじやん？」

こいつは俺のまともな友達、たけだしんいち 武田信一である。

ニクネームは信玄。

言うまでもなく、たけだしんげん 武田信玄から来ている。

「いや、まあね」

「？まあいいか。それよりよあ、転校生来るって知ってるか？」
情報はや！

「女子だってよ！」

知ってるから。

っていうか、憂鬱の原因、それだし。

「楽しみだよなあ」

全然。

何が心配かって、『制服がまだ届いてないから今日だけ私服』って
いうのが怖い。

バリメイド服じゃん！？

みんなの反応が怖い。今から。

「席に着け」

担任が来た。

うちの担任は、東海林理沙。^{とうかいりんりし}（どうやったら東海林をしょうじと読
めるのか未だに理解できない・・・）

若くて美人だが、好かれない。

なぜなら、好きな事は、お気に入りの生徒をいじめ倒す事という、
DSの先生だから・・・（怖ええ・・・）

「転校生を紹介する」

うわあ、ついに来た・・・怖ええ・・・

？

あ、そっか。

うちに居候してるってことがばれなきゃいいんじゃない？

よし！隠し通すぞ！

「ちなみに転校生は宮間のうちに居候してるらしいぞ」

いきなりばれた
！

視線が痛え！くそ・・・あのサディスト教師めが！

ガラガラッ！

来たよもう！

・・・読者にはわかっていてもらいたい。

俺はメイド萌ではないからなああああ！

みんなの視線が桃亜に向いた。

やっぱりメイド服だああ・・・

「はじめまして、紅田桃亜と申します」

桃亜が黒板に名前を書いて、一礼すると、みんなはやる気のない拍手を・・・

つて・・・？

あれ？

普通じゃね？

いや、これは俺の予想していたことなんだが・・・

『え　！？メイド　！？宮間君ってコスプレ趣味あつたの

！？」

みたいな展開をだな・・・

？

ホームルームが終わってからのこと・・・

「なあ、信玄、転校生どう思った？」

「は？ああ、お前んちに居候してるやつか？んー、俺としては上の下？割と美人だったしなあ・・・」

上の上つてのを見てみたい。

じゃなくて。

「服装だよ服装！」

「服装？別に気になる服装でもしてたか？普通じゃん」

普通じゃねえ　　！

「里一君　　！」

噂をすれば来た。

「？？？こちらの方は？？」

「どうも　　！武田信一です、よろしく　　！」

上の下とか言いながらもすっかり自己アピールしてんじゃねえか・・・

「どうも、紅田桃亜です」

「信玄、ハッキリ訊くぞ。メイド服を見てなんとも思わねえのか？」
「普通にかわいいじゃねえか」

・・・。

まともな友達だと思ってたのに・・・

変人の友達がまた増えたよ・・・

「里一君、もうこの話終わっちゃいますよ!」

なんだって!?

「『また増えた』とか微妙な伏線はつくんですね」

微妙とかって言うな!

第4話 学校へ行ってみた！（後書き）

テスト明けました！（結果は：聞かないでください）
と、いうことで、バリバリ更新します！！

よろしければメッセージお願いします（＾　＾）

第5話 委員長実亜のアン・ラッキーな日常（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

第5話 委員長実亜のアン・ラッキーな日常

前回微妙な伏線を張っておいたのだが・・・
(『また増えた』ってやつな)

そう。俺には変な友達がたくさんいるのだ・・・

前々回より登場の柊実亜なんてまだましな方である。
(でも変)

とか言ってたら来た。

「紅田さん」

「はい？」

どさっ

「これ、教科書です。」

「ありがとうございます。」

「校舎案内しましょうか？」

「お願いします」

おお、さっそく友達ができたみたいだな。

まあこれだけ見たら礼儀正しい普通の委員長だわな。

「まずここの校舎が北館で・・・」
ガラガラッ

今の音は柊がドアを開けた音だ。

ばふっ

今の音は、誰かが仕掛けた黒板消し（ドアと壁の間に黒板消しをはさんで開けたら落ちてくるやつ。また古風な・・・）に柎が引っかけた音だ。

「だ、だいじょうぶですか？」

「はい、よくあることですから・・・！」

べしよっ！

今の音は誰かがキャッチボールをしていたボールに柎そうきんがあたった音で・・・

「委員長は今日もついてねえな、かわいそうに」

「今日もって・・・いつもじゃねえの？」

「なありーち」

「ん？」

「委員長と桃亜ちゃんがバケツの水かぶった」

「・・・。」

そう、我らが委員長、柎実亜は不幸体質なのだ・・・

ばしゃああああ！

「きゃああっ！」

どかつ！

「ひゃああっ！」

ゴスッ！

「わあああ！柊さああああん！」

。。。。。

鈍器投げたらだめでしょ・・・

「里一君！どうしましょう！どっかから飛んできた二宮金次郎像に柊さんが頭をぶつけて気絶してしまいました！！」

二宮金次郎像！？

誰だよ・・・投げたやつ・・・

っていうか、

「よく気絶だけですんだな・・・」

「よくあることだって言っていました！」

よくあつてたまるか！

「・・・あ」

おお、目を覚ました。

「また銅像に当たってしまいました・・・先週はビリケンさんだったんですけどね」

だれだよ通天閣から持ってきたやつ！！

「委員長大丈夫？」

「？あ、ああ、信玄君・・・はい、大丈夫ですよ」

そういつて委員長はニコ、とほほ笑んだ。

「わかるかリーチ！？」

「は？」

「ああいつのが上の上なんだよ！」

俺にはよくわからねえが・・・

「めちゃくちゃかわいいだろうが！」

ああ・・・

「委員長が好きなの？」

「・・・・・・・・・・・・・・・・つっ！！！」

はい、図星。

「ちがッ・・・・・・・・！！」

無視ね。

「里一君も信玄さんもなにこそこそやってるんですか？」

「なんにもねえよ」

「ホントですかあ？嘘ついたら『味噌カツ』になっちゃいますよ！」

ならねえよ！（味噌カツうめえし・・・）

どういう理論だよ！

「あのなあ・・・泥棒の間違いじゃねえのか？」

「でもお父様が・・・」

お前の父親、まじで大丈夫か？

柊が立ち上がって、

「こんなことぐらいで倒れてるようじゃまだまだです！」

十分立派だぜ委員長・・・

「委員長、ファイト！」

お前が頑張れ、信玄・・・

その時。

ダダダダダダダダダダダダッ

ん？

なんだこの闘牛が走りくるような効果音は？

と、そんなことを考えてるうちに、

ッどおおおおおんっ！

「わあああああああ！」

うわー、柊が吹っ飛んだ。

「おい闘牛」

柊に突っ込んで倒れていた闘牛は、ムクツと立ちあがって、

「うるさいなあ、誰が闘牛よ！」

と俺に向かって叫んだ後で、首をひねって、

「あれ？おつかしいなあ？あんたに向かって突っ込んだはずなのに、
なんであんたがそこにいるの？」

「新キャラ登場ですね」

「ちょっと里ー！なんで『幼馴染キャラ』の登場が六番目なのよう
！？」

うん、俺に聞かれてもなあ？

ってことで、こいつの紹介は次話に回します

第5話 委員長実亜のアン・ラッキーな日常（後書き）

柊さんの実態が明らかに！？

なんて大げさですけどね（ワラ

これから『キャラ増加月間』続きます！（今考えた）

あ、余談なんですけどね、私関西人なんですよ。

だから美杏華校長のセリフが書きやすい書きやすい…

（オチは無いです ホントに余談ですね）

んでわこの辺で

よろしければメッセージお願いします（ ・ x ・ ）

第6話 新キャラ登場（しないでほしかった…b y 里一）（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

梅坂美杏華

里一たちの高校の校長。

金髪青目のフランス人。

でも関西人。

第6話 新キャラ登場（しないでほしかった…by里一）

「???そう言えばなんで柊ちゃん倒れてるのかな？」

それはお前が柊に向かって突っ込んだからだ。

「あつ、柊ちゃんごめん！」

「あは、あはは、お花畑の中でおばあちゃんがリンボーやってます」
」

・・・俺にもその幻覚を見せてくれ・・・

「あなたよねえ、こいつの家に居候してるメイドさんて」

委員長にこんな幻覚を見せた張本人は桃亜を指さして、

「こんちわつ、私、お隣の皆川千亜里^{みながわちあり}！」

そう、こいつこそ『今世紀最大のトラブルメーカー』という異名をもつ俺の幼馴染である・・・（泣）

聞いてくれよ、幼稚園からずっと同じクラスなんだぜ!?

しかも、『みやま』と『みながわ』だから出席番号も近い・・・

「もうこいつは小さい頃から『味噌カツ』なんだからまいっちゃうわよねえ」

俺味噌カツ!?

もしかして今、男を特産物に例えるのがブームなのか？

「里一、この子になんかしたら衣をつけて焼いてやるわよ!もちろんソースは味噌!」

？

ああ、味噌カツね・・・

腰まで伸びた長い髪を無造作にたらしめている・・・

普通にしてりやなかなかの美人なのに・・・

普通じゃないからね・・・

「あつ、おじいちゃん、そんなことしたらお体に障りますよ！反復横とびなんて！」

柊さんまだ幻覚見てました。

「柊ちゃん、起きなさい」

「もう、やめてください、ひいおばあちゃ・・・ん??」
起きた。

あ、わかった。なんでみんなが桃亜みて驚かないのか・・・
それぞれのキャラが濃すぎるから・・・

↓放課後↓

「あーあ、歩いて帰るのめんどくさいなあ」
そんなこと言われても・・・。

「里一、おんぶして帰ってえ」

「おい、おまえなあ」

「俺もだりい。リーチ、おんぶして帰ってえ」
殺すぞ信玄！

「今日は何かと疲れましたあ」

「委員長だったら俺が担いで帰ったげるよ！」

「あ・・・いえ（汗）」

がんばれ信玄！

「里一君里一君！こんなもん落ちてましたよ！」
ん？あ、買い物メモじゃん。

「何何？イカ、マグロ、大根、味噌、ニンジン」

「今日の晩御飯はお刺身とみそ汁やね！」

お、ご明答。

今日の晩飯はイカとマグロの刺身、それから味噌汁だ。

「あ、桃亜、買ってきて」

「今からですか？」

んー、帰ってからでいいかな？

「ほな帰るか」

「そうだな、帰るか、桃亜」

「はい、そうですね」

「あ
ね！」
！まちなさいよお！私も帰るんだから

「え、じゃあ私も・・・」

「委員長が帰るなら俺も」

「じゃあうちも一緒に帰る」

みんな家は同じ方向だったりする。

結局みんな一緒じゃねえか・・・

・・・。

・・・？

「美杏華校長　！？」×5

「ええー？なんでえ？あかんのお？」

「校長は仕事とかないんすか？」

お、信玄がまともなと言った。

「うん、めっちゃ有る」

だめじゃ　　ん！

それからみんなで美杏華校長を職員室に引っ張って行った。
そしたら東海林先生が来た。

「嫌や嫌や！うちも帰る　！」

「校長先生は残って仕事なさってくださいね」

「嫌やあああ！」

「・・・校長先生？」

そしたら東海林先生は美杏華校長になんか呟いた。

「すみませんでした。」

あっさり謝った！

何言っただ東海林先生！

「やっぱり東海林先生に来てもらって正解でしたね」

「なんであっさり言うこと聞いたんでしょ？？」

（俺）「うーん、なんとなく？」（柊）「うーん、まあぼんやりとは」

柊はわかるんだな。

「やっぱり東海林先生には、NYIKパワーがあるんでしょうか？」
「なんですか、それ」「なんだよ、それ」

「NANKA YAPPARI IUKOTOWO KIIITE
SIMAU パワーです」

すげえ・・・

「桃亜さんは想像力が豊かですね！」

そう思う委員長もすげえ・・・

第6話 新キャラ登場（しないでほしかった…by里）（後書き）

ななななんとお！

コメントをいただきました！！

びっくり&超嬉しい！

ありがとうございますッm（´・｀）m

第8話 はじめてのおつかい (爆(前書き))

キャラ紹介

宮間里一(17)

普通の高校生?

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜(17?)

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。

ショートカットのメガネっこちゃん。

第8話 はじめてのおつかい (爆)

「いつてきまあす」

「おう、気つけろよ」

学校から帰ってきた俺は、桃亜に晩飯の材料の調達を頼んだ。
その間に俺は、洗濯だあ！

ピンポーン

ん？誰だ？

「私よお！開けなさい！」

千亜里
！

きつと・・・ややこしいことになる・・・

ピンポーンピンポーンピンポーン

うぜえ！

わかったよお！

「いやあ、お母さんパート始めたのよねえ、わすれてた！！」

「んで、なんで茶碗と箸を持ってるんだ？」

「今日、刺身なのよねえ？楽しみ」

・・・？

ヲイチョットマテエ
！！

「食っていくつもりかあ！」

「んふふん あったりまえじゃなあい」

ちょーうぜ
！

ピンポン

「お、桃亜か？」

「ねえあんた、桃亜ちゃん襲ったりしてないわよねえ？」

ぶふおおおお！

「んなわけないだろうがこのボケがああ！！」

「ふーん、じゃあいいけど」

ちなみに桃亜はお袋の部屋を拠点としている。
もう桃亜の部屋と化しているが。

ピンポン

「はいはい、今開け・・・」

ガチャ

「リーチ、お邪魔するぜ！」

「あ、私もいいですか？」

委員長と信玄来た
！

「・・・」

「いやあ、委員長が家の鍵忘れたとかで、入れねえらしいからさっ
！」

「んで何で俺の家に来るんだよ？」

「ん・・・成り行き？」

「うおい！」

「ひまねえ・・・」

「暇だなあ・・・」

「ヒマですねえ・・・」

・・・願わくは帰っていただきたい。

「テレビでも見ましょうか」

「そうですねえ」

「リーチ、水かお茶、ない？」

・・・もつつっこむのも疲れた・・・

ちなみに俺は掃除中だ。

チャララ～チャラララララチャララ～

ん??

テレビか、何を見てるんだ？

「キヤー、始まったわよ、『必殺・テルテル坊主仕掛け人』ッ!!」

範囲せめえ

!

つつーかテルテル坊主を殺して何の意味が・・・

「あつ、私も見てますよ！乾燥肌のテルテル坊主仕掛け人は湿気を求めるあまり、子供たちのつるしたテルテル坊主を殺して雨にするんですよね」

やめろよ！

子供たちの夢を壊してやんなよ！

ちなみに信玄はというと、最初はシケた感じの目で『必殺・テルテル坊主仕掛け人』を見ていたが、終わるころには千亜里と柊をのぐテルテル坊主仕掛け人のファンになっていた・・・
なんじゃそりゃ。

ピンポン

「ただいまです！」

「お、おかえり」

「なんだこれは」

「え、イカとマグロと大根と味噌とニンジンですけど」

「桃亜さん、これはちよつと・・・」

「あつははははは！ナイスね！」

「晩御飯、どうなの？」

なんでよりによってイカリングとツナとニンジングラッセを買ってくるんだよお！

極めつけは『味噌カツ』かよおおお！

「まともに買えてんの大根だけじゃん」

みんなでイカリングとニンジングラッセとツナ大根サラダと味噌カツを食べました。

「あつ、ブードウ人形侍始まってますよ！」
・・・もついい。

第8話 はじめてのおつかい (爆)後書き

ども！

読んでくれてありがとうございます

マンガを8冊もまとめ買いしてしまい、お金がやばい状態の華蜜です；

いやあ、いいですよねえ、漫画。

コメントお願いしますッ (-人-*)

第9話 迷走ヤマトナデシコ（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

第9話 迷走ヤマトナデシコ

桃亜が奇想天外なおつかいをしてきたため、イチからおつかいを教えています、

どうも、宮間里一です。

めんどいです。

そして、

「スーパ―とか久しぶりに来たぜ」

「ほんと、何年ぶりでしょう？」

「あつ、見なさいよ！これ味噌カツよツツ！」

「あ！ホントです！里一君、買いですよねっ！」
みんなも一緒です。

「千亜里、味噌カツばかり入れない！

信玄はマヨネーズ持ってこい。柊は牛乳ね。

桃亜はお菓子返してこい」

俺はお前らの母親かってんだ！

ぐいぐい

ん？桃亜？

「あれ、何でしょうね？」

あ、人だかりができてるな。
なんだ？

で、みんなで見に行く。（野次馬だな）

「貴様・・・大和家のものだな！？」

・・・着物を着た女の人が暴れてた・・・

見てたら目が合った。

うわぁ・・・

とか思つて目をそらしたらこつち来た・・・

「あぁッ？桃亜じゃありませんの！」

え？

「撫子ちゃん！？」

・・・桃亜の知り合い？

「マドでみんなで昼飯」
わたし あさくらなでしこ

「私、浅倉撫子と申します

桃亜の親友ですの」

「撫子ちゃんは、茶道の名門、浅倉家のあととり娘なんですよぉ」

黒髪を結いあげ、黒地に撫子の花が描かれた着物をまとった彼女は、まるで大和撫子・・・

シャキーン！

首に何か冷たい感触・・・

t h a ・ 刃物

！！

撫子さ

ん!?

「私が大和撫子ですって・・・？馬鹿をおっしやい、私は浅倉撫子ですわ？」

そっとういみじゃねええええ!!

ってか、これ何!? ねえ!

「なつ、撫子さん、そういう意味ではないっすから!」

「あら? そうなの?」

信玄ナ

イスッ!

何かと思ったらクナイでした・・・

【クナイ】 忍者が使用した小型の道具である。容易に秘匿できるような形状をしている。漢字で書く場合は「苦内」「苦無」等と表記される。元々は工具であり、持ち歩いても不審に思われなかったことから忍者が武器として使うようになった。

サイズは10 - 15cmで、平らな鉄製の爪となっていて、壁を登ったり、壁や地面に穴を掘るのに使用された。

忍者の使う道具としては手裏剣やまきびしと同様に良く知られているが、良質な鍛鉄で作られるためあまり利用されなかった。

小型のものは手裏剣のように使われることもあり、「飛苦無」(と

びくない）と呼ばれ、目標に刺すのが棒手裏剣より難しいことから命中させるのは相当の手馴れ（てだれ）とされた。

んで、どこにしまうかというところ・髪の毛のお団子ですか・・・クナイの持ち手には飾りがついているから、髪の毛にさしても自然だ。（そうでもないか）かんざしっぽいね

「んで、撫子さんはどうしてここにいらっしゃるんですか？」

「そういえば“大和家が・・・”とか言っていましたよね？」

「実は・・・」

浅倉家あととり、撫子は複雑であった。

なぜなら、話したこともない相手と婚約をしなければならなかったから。

写真は見た！

顔はいい。

でも会わなきゃ無理だ。

「はじめまして、僕、大和樹やまとだいきと申します」

無理ですわ

！

「というわけですわ」

「え？」x5

「なんでそれで無理になるの？」

「だって・・・結婚したら私、『大和撫子』やまとなでしこじゃありませんの！？」

理由それだけえええ！？

「・・・ううツ・・・」

「かわいそうな撫子さんです・・・」

「俺たちが味方だからな・・・!」

「撫子ちゃん・・・相談してくれたらよかったのに・・・」

「・・・そうだわ!撫子ちゃんも里一の家にいればいいのよ!」

いやいやいや、泣くところじゃねえだろ。
つて、え?

・・・。。。

なんですつて

!?

「おい!ちよいまでええツ」

「・・・里一」

「リーチ、お前がそんな人でなしだとは思わなかったよ・・・」

「里一君・・・」

いや、ちよつと待てつて、おい。

俺は助けを求めるように柊を見た。

柊は、俺をちよつと見て、

「・・・最低です」

!!!!!!

ひっ・・・柊までえええええ!?

・・・くそお!

不幸体質キャラなのに最近全然不幸じゃねえじゃね・・・ぶはッ!?

「委員長の悪口を言うものは俺が制裁する。」

怖ええええ!!

信玄、いつになく黒いオーラが・・・

っていうか、やめろよ、その死んだ魚の目で俺を見るのは!

「・・・宮間君、残念です・・・」

残念!?

「もういいよおお!」

「やったわ!」

「よかったなあ、撫子ちゃん!」

「さっすが、里一君です!」

「これからよろしくです、撫子さん」

・・・Oh I'm very unhappy・・・

はっ!

シヨックのあまり英語が出てしまったぜ・・・

ペシリ

ん? 頬に軽いものがあたって・・・

何だ?

・・・。

・・・・・？

札束

！！

「これ、お礼ですわ」

と、いうことで、浅倉撫子が俺の家に来ました

「今日の晩飯は奮発して鯛飯だぜ

！！」

「やったあああ！」x4

第9話 迷走ヤマトナデシコ（後書き）

いやぁ・・・久し振りの更新ですね！
すんません、待っていたいただいた方々・・・
これからも精進しますじゃ！！
ので、よろしく願います（×）

第10話 桃亜と撫子と朝（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

第10話 桃亜と撫子と朝

俺の朝は早い。

6：00に起床、弁当をつくり、洗濯物を取り込み、朝飯の準備をする。

最近桃亜の分も作るから、割と時間がかかる。

（桃亜には料理させたことがない・・・怖くて）

6：30

ジリリリイン！

桃亜と撫子さんが寝ている部屋から目覚ましの音が聞こえてくる。

（本人たちは7：30にセットしているつもりだが、時計を1時間遅めてある。洗濯できないから）

ゴシャアアア！

・・・。

なんか・・・生々しい音が・・・
新しい目覚まし買わなきゃな〜

さて、どうやって起こすかな・・・

2人はお袋の部屋に布団をしいて寝ていた。

「勝手に入るんじゃないよ！！」

ビクッ！！

「そこは私のテリトリーよ・・・むにゃ」
寝言!!!?

ちなみに桃亜の寝言ね、今の。

「・・・・・・・・・・鮭が・・・」

鮭？

「私のタバスコをとりましたわ!!!!!!」

・・・・・・・・辛い鮭になりそうだな・・・

「一気飲み！一気飲み！」

危険ですよータバスコ一気は・・・

つてゆーか起きろよ!!

「おい、起きろ」

・・・。

「起きろ」

・・・。

「起きろ」

・・・。

・・・。

「起きろつつつてんだよ、うツとおしいい！！！！」

「わああああ！？里一君がキレたああ！」

「きやあああ！？なななんですの！？」

7：30

朝飯

今日の朝飯は、トーストとヨーグルトという、ごくごく普通のものである。

「あ、里一君、ジャム取ってください」

「はいよ」

「そついえは撫子ちゃんて、学校、どうするの？」

「無論、桃亜たちと同じですわ」

え？えええええ！？

ななな撫子さんも来るの！！？

・・・これ以上変なのが增えるのはごめんだね。

それに・・・

「学費・・・出せないよ？」

そつ、桃亜の学費は俺が出しているのだ・・・

おかげで家計は火の車さ・・・

「あら、自分で出しますのよ。私、お小遣い、全部持ってきましたの」

お小遣いて・・・

「ほら」

どさっ

ん？

効果音おかしくない？

「さっ・・・札束ああ！？」

おかげで少し家計が楽になりそうです。

第10話 桃亜と撫子と朝（後書き）

うわああ！

10話達成！！

皆様のおかげでございます！

ありがとうございます！

（更新遅れてすいません・・・）

これからも末長く見守っていてください・・・

よろしければ御意見・御感想お願いします

第11話 柊実亜の訪問（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

皆川千亜里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない。

第11話 柊実亜の訪問

「わん！わんわん！」

私は愛犬ピッピの鳴き声で目を覚ましました。

「おはようございます、ピッピ」

はっ！？

なぜ今日は私目線なのでしょうか！？

うーん、ちよつと宮間君に申し訳ないです・・・

まあ、ぐちゃぐちゃ考えてもしょうがないですよ

こんにちは、委員長の柊実亜です。

今回はなぜか私目線なので休日の私のんびりライフをレポート・

・

え？それじゃあ面白くない？

誰ですかあなたは？え？作者？何の？

うーん、邪魔が入ってしまいました・・・

それにしても面白いのんびりライフっていったいどんなものなんでしょう？

面白いものと言ったら桃亜さんや宮間君でしょうか？

そうです！遊びに行きましょう！

ブルルルルルル　ブルルルルルル　ブルルルルルル

んゝ、なかなか出ませんねえ・・・

「はいもしもし、宮間です！」

「あ、こんにちは、柊です」

「委員長？何？っつーか今電話しようと思った！」

「ヒマなので遊びに行こうかと」

「あ、オツケー！来て来て！信玄も誘ってきてくれない？人数多い方がいいんだよね・・・」

「何かするんですか？」

「いやあ、桃亜がクッキーを作るらしくて・・・みんなで食べようと・・・」

「えっ、いいんですか？」

「いや、感謝したいのはこっちの方で・・・ほら人数多い方が一人あたりの被害少ないだろ？」

「瞬行くのやめようかと思いましたが、これも面白のんびりライフのためです！」

まずは信玄さんのおうちに寄ります。

信玄さんのおうちは私の住むマンションのとなりの隣にあります。

ピンポーン

ガチャッ

あ、信玄さんです。

寝起きなのでしょうか、まだパジャマです。

起こしてしまったのなら申し訳ないですね・・・

「だれ・・・こんな朝早くに・・・って委員長　　！！？」

「おはようございます、信玄さん」

「おおおおおはよ・・・ちよっとまって！すぐ着替えてくるから！」

バタンッ

五秒後

ガチャッ

「ごめん、おまたせ！」

うわー、高速通り越して音速です！

早着替えの得意な小粋な忍者見習いさんもびっくりですね！

さて、信玄さんと二人で宮間君の家に向かいます。

「で？リーチの家に何しに行くんだって？」

「桃亜さんがクッキーを焼いてくれるそうなのでお呼ばれに……」

「えええっ！？も、桃亜ちゃんがクッキーを！？」

「……途中で胃腸薬を買っていきましようか？」

「同意……」

薬局に行くと、なんと千亜里さんがいました！

「あれ？チアリンじゃんッ？」

「あッ、信玄に柊ちゃん？デート？」

「いや……それは……」
「ごによごによ（そうなたらいいなあ、みたいな）……」

「いいえ」

「……」

「ふーん、もしかして、里一の家にお呼ばれ？」

「あッ、はい、そうです！」

「じゃあやつぱり胃腸薬買いに来たんだ？」

「はい……」

「じゃあいこうか？一緒に（ニヤリ）」
「……」

それからしばらく信玄さんがしょんぼりしていた様子だったんです
けど……

気のせいでしょうか？

第11話 柊実亜の訪問（後書き）

いやぁ・・・

更新遅れてごめんなさい・・・

まあテストだったんですけどね。

具体的に言っと、社会が壊滅ですね。

これからはもっともっと更新に励みたいです
ですね・・・

末長く温かく見守っていてください） ・ ・ （

第12話 桃亜クッキング（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

皆川千亜里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

第12話 桃亜クッキング

なんか前回は終視点だったけど、今回はちゃんと(?)俺です。里一です。

昨日、急に桃亜が

「今のトレンドはやっぱり料理ができる女ですよねえ!!?」

とかなんとか満面の笑みで俺に聞いてきたあたりから事は始った。メイドなのに料理できないのかよ!というツツコミは無しの方向で。

「料理?んー、できないよりはできた方がいいんじゃない?」

などとパソコンでネットゲームをしながらテキトーに答えてしまったもんだから、

「ですよねえ?

よし!クッキーを作ろう!」

なんて宣言されてしまった。

そのときは

「マンガみたいに爆発なんてこたあねえだろう、食べれなさそうだったら残せば・・・」

と考えていたのだが、

「残したら死刑」

と風呂掃除をしながら口ずさまれたので残すわけにはいかなかった。

「被害者は多い方がいいですね。一人あたり食べる量が減りますもの。」

「のわああああ！？ななな撫子さん！？いつから後ろに・・・」

「そうときまれば皆さんを呼ばなくてはなりませんよね？」

「そうだな・・・」

次の日（つまり今日）、千亜里と信玄と委員長がやってきた。胃腸薬を持って。

（詳しくは第十一話「柊実亜の訪問」をよんでください）

「やけましたよ～～」

桃亜がクッキーが山ほど入った皿を持ってきた。
っていうか量がやたら多い・・・

「み、見た目は普通ね・・・！」

「っていうかむしろおいしそうです、見た目は。」

「だ、誰が最初に食べますの・・・？」

「そこはほら・・・普通リーチだろ？」

「おッ、俺かい！？」

「なにをこそこそ喋ってるんですか？
早く食べましょうよ？」

も、桃亜が怖ええ・・・

「せーので行くわよ、いい？せーの・・・」

パクッ

「あれ？」

「ってゆーか、

「これ・・・おいしいぞ？」

「ホントです！意外です！」

「なかなかいけますわね・・・」

「なにこれー！？おいしいじゃないのー！」

「おいしいけど・・・」

「どうしてだろう。」

「フライドチキンの味がするのは。」

「あのお、桃亜さん？」

「なんですか、里一君？」

「何を入れたのかなあ、これは。」

「えーっと、ブラックペッパーとお、手羽先とお・・・」

「うん、その時点でもうクッキーじゃないよね。」

「っていうか、手羽先をクッキーに入れんなコラ。」

「ええつつ、まずいですか！？」

「えっ！？」

「まずいんですね、まずいんですね？」

「いや、だれもそんなこと・・・」

「まずいならまずいって言うてくださいいよー！」

「うわあ、泣き出した！？」

「いや、だからほらさ、だれもまずいなんて言ってないだろ？（汗）」

「みてえ、里一ったら、女の子泣かせてるう」

「ホントです」

「うっわ、かわいそ、桃亜ちゃん」

「女の敵、ですわ」

泣きたいのはこっちだ

！！

「ごめん、ごめんってば！みんなおいしいって食べてるだろ？」

「・・・里一君はおいしいと思うんですか？」

「・・・」

いや、ぶっちゃけクッキーとしてはどうかと・・・
なんてことは死んでも言えない。

「・・・おいしいと思ったから」

「ほんと！？ほんとですかあ！？やったああ」

つてか・・・

嘘泣き

！？

「よし！じゃあもつともつと焼いちゃうぞ

！！え

つとお、胡麻ドレッシングって、どこでしょうか？」

その瞬間、全員の顔が蒼白になったのは言うまでもない・・・

第12話 桃亜クッキング（後書き）

なんか・・・最近めっちゃ更新遅れてますよね・・・
すいません；

アニメにはまってしまってますね・・・

今日なんて一人でそのアニメの最終回みてボロ泣きしましたからね。

ひとりで。

ボロ泣きですよ。

あやしいですよね。

すいません。

えーっと、ご意見、ご感想よろしければお願いします。

第13話 妹属性ロリガール（スパイス入り）（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

皆川千亜里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

第13話 妹属性ロリガール（スパイス入り）

「ねえ、映画行かない？」

学校の廊下で千亜里に話しかけられた。

桃亜は教室で委員長と信玄と撫子さんと「家電しりとり」をしている。

「は？映画？俺が？千亜里と？」

「違う！！」

は？ますます意味がわからねえ。

誘っておいで自分が行かないとか・・・謎。

「じゃあ誰と？ひとりで行くほど暇じゃないんだけど」

「いや、ほんと私は私が行ってもよかったんだけど・・・あの手の映画苦手なのよ。」

「は???」

いったい何が言いたんだよ。

「だから、この子と行ってあげてほしいのよ」

千亜里の後ろからちっちゃい女の子が出てきた。

ツインテールで童顔、ロリ萌にはばっちり受け・・・じゃなくて。

「だれ？」

「・・・・・・」

え？何かしゃべった？聞こえないっていうか・・・。

「三組の仙崎ざくろちゃんよ」

「……よろしく」

あ、しゃべった。

「あ、うん。よろしく」

「で？なんで俺がこのちっちゃい子と映画を……」

「うん、ほんとだね、この子のお母さんと行く予定だったらいいんだけど、急な仕事でドタキャンされちゃって。チケットも余ってるし一緒にどう？って言われたんだけど、私こっこの嫌いでさあ……」

うん、なんとなく内容はつかめたようなつかめなかったような？

っていうか千亜里に苦手なものなんてあったっけか？

「明日だから。」

「明日！？早くない！？っていうか超いきなり……」

「……だめ？」

え？

見るとザクロちゃんはウルツとした眼で俺を見て……

「……だめ？無理なの？」

いや、もう、そんな目で見られたら男として……

「わかったわかった、行くから！」

次の日

うっくん、ザクロちゃん遅いなあ？
なんだかんだいって十五分は待ってるぞ？

「・・・おくれてごめんなさい」

背後から声が・・・！

「あ、うっくん、全然待ってないし・・・」

今日のザクロちゃんのファッションはデニム地のスカートとピンクのパーカー。

言っちゃ悪いけど、ものすごく子供っぽい・・・

「・・・あ、じゃあ行こう・・・」

お兄ちゃん・・・」

「うん・・・って、んん？」

「・・・？？」

「今お兄ちゃんって言ったように聞こえたんだけど・・・
the・空耳ってやつだよねっ」

「うん、言ったよ・・・？」

えーっと・・・なんでかなあ？

「チアリンの入れ知恵・・・」

入れ知恵って・・・；

「映画・・・間に合わない・・・」

「あ、ああ、ごめん」

そして映画館。

俺はポップコーンを購入。

ザクロちゃんはスルメを購入。

「チヨイス渋いね・・・」

「スルメ好きだから・・・」

なんかチケットの手続きその他もろもろはザクロちゃんがやってくれました。

っていうか・・・何の映画なんだろう？

千亜里が苦手なのって・・・

あ、動物的感情系かな？

「生ぬるくてきらいー」

って言いそうだしな。

俺は好きだけど。

「始まるよ・・・お兄ちゃん」

兄弟いたことないからなんか違和感・・・

悪い気はしないけど。

最初にCMがやたら長く入ってちょっとイライラ。

ときどき怖いのが入るのがいや。

実は怖いのが苦手で

やっと始ったよ。

『赤い日記帳』

え？

赤い日記帳って・・・まさか・・・

時同じくして里一宅

「里一君たち、楽しんでるでしょうか？」

「さあ？でもザクロちゃん楽しんでるわ。」

「なんの映画を見に行きましたの？」

「うん、ザクロちゃんって、ちっこくて童顔で超絶ロリ系だけどね、実は、」

「スプラッタなB級ホラーが大好きなのよね」

撫子と桃垂は、ホラー映画のCMが出るたびに「ひっ」と上ずった声を上げる里一を思い出して苦笑いをした。

映画館

ぎ・・・ぎゃあああああ！

首が・・・！！血があああ！！

助けてー！！

《いやああああ！！助けて！！

死にたくない！！・・・きゃああああ！！》

いやああああ！！！！

放送禁止が放送禁止で・・・（グロすぎて放送禁止。）

「・・・くす・・・くすくす・・・」

笑うとこ違うよザクロちゃん！？

もういやだ、帰りたいiiiiiiii！！！！！！

一時間後、失神した里一を連れて帰るために、千亜里を通して信玄が呼ばれましたとさ。

第13話 妹属性ロリガール（スパイス入り）（後書き）

どうもどうも！華蜜です（´・`・´）

前回の更新からかなり間があいてしまったことを深くお詫び申し上げますm（ ; ）m

またもや新キャラ登場です・・・

なんか個性の強いキャラが増えていくたびに比較的思考が一般的な信玄が消えていつてしまっています・・・（焦

もつとがんばって一人一人の個性を生かさねば・・・！！

次のお話は文化祭です。

思いつきり季節はずれですよー（汗

御意見、御感想お待ちしております

（個人的な欲求で申し訳ないですが、好きなキャラとか書いていたけると個人的にうれしいです。）

第14話 文化祭だぜー！打ち合わせ編（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

皆川千亜里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

仙崎ザクロ

千亜里の入れ知恵で里一を「お兄ちゃん」と呼ぶ。
見た目はロリ系だがスプラッタなホラーが大好物。

第14話 文化祭だぜ！～打ち合わせ編～

「第四十九回、梅坂高校文化祭・・・」

「そう！来月は文化祭よ！」

どうも。お久しぶりです。里一です。

そしてなぜかみんながうちに勢揃いです。

「文化祭って普通は二月ぐらいにする物なのですか？」

違っよ撫子さん！

「うん、そうよ！」

お前も大声で嘘言ってんじゃねえよ！秋だろ！

「で、何をするんですか？」

みんなが変過ぎて桃亜がまともに見える・・・

「ふっふっふっふ、聞いて驚かないで頂戴、演劇よ！！」

「あんがいありきたりですね・・・」

「どーでもいいが、演劇って何をするんだ？」

「それを考えるのが我がクラスの委員長、柊実亜の役目よ！！」

「えッ！？わ、私ですか！？」

おいおい、押しつけてやるなよ・・・

「そもそもそういうのはHRの時に決めるもんだろ？それにここでクラスの話をしたらザクロちゃんがかawaiiそうだろうが」

前回から登場のザクロちゃん。

超絶ロリ系でスプラッタ大好き少女。

「うっん・・・気にしないで・・・」

私は一人で本読んでるから・・・」

「えゝ？何なに？？」

最近影の薄い信玄がザクロちゃんに話しかける。

「赤い呪い・・・あらすじは・・・」

まずい！

ザクロちゃんが信玄にグロイ小説のあらすじを語ろうとしている！
聞いたらきつと眠れない！

「そッ、そんで？何の演劇をするんだ？今年は」

話題を戻す俺。

我ながら必死だ。

「今、里一君話題戻しましたね。」

「そうですわね」

「宮間君はホラーが苦手なんですね」

「ふふゝん？弱み握っちゃた」

超ばれぱれでした。

「たしか去年はチアリンが書いた『七匹の子ブタと浦島シンデレラの烈風伝』だったよね？」

「とっても突っ込みどころ満載のお話ですね・・・」

「ちなみに委員長は意地悪な鏡の役だったわよね」

「ちがいますよ。お菓子の城の妖精Eでした」

「去年この学校にいなかったことをとても悔しく思います。」

「そういえば里一君は去年何の役だったんですの？」

ぎくっつ!!

「言わせないでくれ。忘れたい過去なんだ。」

「浦島シンデレラでしたよね」

柊 ！？

ま、まさか柊がさらつとばらすとは・・・

「女役ですか？」

「そうそう、里一ってば意外と美形でわりと小柄だから女装が似合うのなんの！」

千亜里？なに言ってるのか聞こえないけど変なこと桃亜たちに吹き込むのはやめてくれ！

「さて今年はどんな話にしようかしら」

え、千亜里が書くこと決定形なの？

・・・また女装させられたりしないよね

「お花の妖精さんAを里一に持ってくるのはどうかしらね？」

ヤ メ テ ! ! !

「あつ、私が書いちゃだめですか？」

「え??」×6

も、桃亜が書くの？

「いいわよ!」

案外あっさり。

っていうか・・・いやな予感するのは俺だけかなあ・・・？

第14話 文化祭だぜー！打ち合わせ編（後書き）

どうもどうも！華蜜です（、、）

やってきました！テストの季節です！

塾が忙しくなってます。いりました。

ちよつとずつしか更新できません。

すみません。

さて！今回は信玄君、ちゃんと目立ててたらいいんですけどもね@
（・・；@

御意見・感想お待ちしております

次の更新は3月1日の夕方を予定しております

第15話 文化祭だぜー！参考資料編（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

皆川千亜里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

仙崎ザクロ

千亜里の入れ知恵で里一を「お兄ちゃん」と呼ぶ。
見た目はロリ系だがスプラッタなホラーが大好物。

第15話 文化祭だぜー！参考資料編

どうも、宮間里一です。

この間桃亜が『脚本を書く』とか言い出した。

「は？桃亜に書けるんですの？」

「なッッ！！書けますよ！！」

「そうだわッッ、参考に去年のビデオを見ない？」

！！

「ちょっと待てエエエエ！！」

「チアリン、それはヒドいんじゃない？リーチもこんなに嫌がってることだし…」

なんて言い奴なんだ…信玄よ…

「えッ、でも私も見たいです」

「よし、チアリン、テレビつけて」

おいちよつと待てエエエエ！！！！
つていうか委員長最強！！

「私も…見たい…お兄ちゃんの勇姿…」

「私も見たいですわッ」

「私も見ますー！！」

「満場一致で見ることに決定よ！！」

なんかもう…泣いてもいいですか…

七匹の子豚と浦島シンデレラの烈風伝、始まり始まり

昔々あるところに浦島シンデレラという健気で可愛い女の子がいました。

（いやああああ！！消してえええ！！）

（里一君うるさいですよ！！）

ある日シンデレラは言いました。

「ああ、チンジャオオースが食べたい。」

（ちなみに浦島シンデレラの声は他の女子の吹き替えよ！！）

シンデレラは中華料理が大好きでした。

しかしシンデレラは継母と2人の姉にいじめられていました。

「シンデレラ、あなたに食べさせる中華料理なんてないわ！！」

「そのへんのパンでも食べてろだべや」

「おーっほっほっほっほ！！」

（次女のキャラが謎いです！！）

「そんな横暴はやめろ！！」

そこへやってきたのは七匹の子豚たちです。

豚A「子豚レッド!!」

豚B「同じく子豚ブルー!!」

豚C「同じく子豚イエロー!!」

豚D「同じく子豚ピンク!!」

豚E「えーっと・・・あ、子豚ブラック!!」

豚F「・・・子豚ホワイト!!」

豚G「えええッ!?それ言おうと思ってたのに!!子豚・・・子豚・・・子豚群青!!」

(子豚群青が可哀そうになってきましたわ・・・)

「だれだべやお前ら!!?」

「正義を愛する子豚たちさ(キラーン)」

「あの七匹の子豚だって言うの...?」
「しょうがないわ、奥の手よ!!」

「はい、お母様」

「ついにあれを使っただべや...」

「なにを始める気だ!?!」

「変...身」

「我ら三身一体!!」

「ビーズクッションドラゴンだべや!!」

なんとそこに居たのは赤い水着のような布地でできた、あの独特の
さわり心地のドラゴンだったのです!!

（癒し系なのか恐ろしいのかよくわかりませんね。）

子豚たちは呆然です。

そこで浦島シンデレラはドラゴンの後ろに回ると、チャックをいきなり引き下ろしました！！

（あつ、里一君の顔がアップになりましたよ！！
とっても可愛いです！！）

（お願いイイイイ！！消してエエエエ！！……ごはッ）
（さっきからごちゃごちゃウルサイわねえ、黙りなさいよ！）

するとチャックの後ろからサラッサラのパウダービーズがこぼれ落ちます。

「ぎゃあああああ！パウダービーズは発泡スチロール製イイイ……」

断末魔を残してドラゴンは消え去りました。
呆然としていた子豚たちは、我に返って言いました。

「僕たちの仲間にならないか、シンデレラ」

シンデレラは答えます。

「魔法の鏡と北京ダックを頂戴。」

魔法の鏡（電動）とたくさんの北京ダックを手に入れたシンデレラは、子豚たちと共にお花の妖精退治の旅に出るのです。

（お花の妖精って敵ですか！？）

ブツッ！！

急にビデオが切れた。

内心ほっとしている俺。

「あ、忘れてたわ。ここでテープが切れたのよ。」

「あゝあ、もうちょっとで委員長の出番だったのに」

「残念でしたわね、桃亜」

以外と桃亜は残念そうじゃなかった。

「いいえッ、もう構想はばっちりですッ」

そう言うとは処からかノートを取りだしバリバリ書き始めた。

…あれを参考にした桃亜の書く演劇…

本心言っていていいですか？

怖い。

第15話 文化祭だぜ！～参考資料編～（後書き）

のわああああ！！

1日に更新するとか言っというて日付変わってしまいました！！
全力でごめんなさい！！

そしてテストの結果は聞かないで！！

御意見・感想・その他文句など（苦）ありましたらお願いいたします
すm（- -）m

第16話 文化祭だぜー！台本編（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツッコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家に来たメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

皆川千亜里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

仙崎ザクロ

千亜里の入れ知恵で里一を「お兄ちゃん」と呼ぶ。
見た目はロリ系だがスプラッタなホラーが大好物。

第16話 文化祭だぜー！台本編

俺は驚愕していた。

いや、俺だけじゃない。

信玄も、委員長も、撫子さんも、あのクレイジー千亜梨も、クラス全員が

桃亜の書いてきた台本のおもしろさに驚愕していた。

今日の朝、桃亜の荷物がやたらと重そうなのを、何だろうと見ていたが、なんと御丁寧にクラス全員分の台本を印刷して持って来たのであった。

そのみんなが驚愕した桃亜の演劇を、俺の突っ込みと同時に、ご覧いただこう

普通じゃないけどアリス

昔々…ではなく今！現在！

閑静な住宅街に、アリスという、日本人のくせにカタカナの名前を持つ少女がいました。

ジャージにＴシャツのアリスは思いました。

「早くこのお芝居終わらないかなあ……」

（演劇であること自覚した！主人公なのに！しかもかなりの干物女！）

暇を持て余す受験生アリスは庭をふつと見ました。

（勉強しようよ！）

なんとそこには時計を持ったウサギっぽい物体がニョロニョロ蠢きながら、

「あゝいむれゝいとゝ！」
と泣き叫んでいました。

（もうその時点でウサギじゃねえ……）

アリスは

「何、あのプリンは？」

と思い、庭に飛び出しました。

ウサギっぽい物体はニョロニョロと蠢いていましたが、アリスの目の前でふつと消えました。

なんと目の前には深い深い穴があつたのです！

アリスは少し戸惑いましたが、これもあの生物を捕獲、学会に発表
そして大金を貰うためです。

（アリス計算高ッ！）

アリスは穴に飛び込みました。

穴は思った以上に深く、長い間アリスは落ちていました。

しばらくすると、アリスは地面にたどり着きました。

「あのプリンはどこに行ったの？」

アリスはウサギを探します。

すると、小さな小さなドアの向こうで、何かが這うような音が聞こえてきました。

そのドアは鍵がしまっていました。アリスはカメラで破壊しました。

（アリス最強！）

しかしドアが小さすぎて入れません。

アリスはポケットからスマートフォンを取り出すと、自分の体に当てました。

アリスは小さなドアの中に入りました。

するとそこは、ニュージージーランドでした。

（ワンダーランドの間違いだろ…）

ニュージージーランドを歩くうちに、アリスは一匹の猫と出会いました。

猫は言いました。

「今から言つなぞなぞに答えてみなよ。パンはパンでも食べられないパンはなーんだ？」

アリスは思いました。

「さつきからニヤーニヤー何言ってるんだろう？」

猫の言葉は通じていませんでした。

アリスは猫を素通りして行きました。

「答えはまずそうで食べられないから納豆パンです！」

（ええええええええ！？）

猫は負け惜しみで叫びました。

次に、アリスが出会ったのは、道ばたにレジャーシートを引いてお茶会をしている人たちでした。

「あなたはだれ？」

キャップをかぶったチャラそうな人が答えました。

「俺はーア、帽子屋ってーエ、呼ばれてるよおー、実家は農家だけどねえー」

次に、ウサミミをつけたゴシックでロリータな人が答えました。

「わたしは三月うさぎ。だピヨン 三月タンってよんでピヨンはあ、30後半だピヨン」

（いい年してコスプレか　！！）

次に、眠そうな顔をしたハムスターが言いました。

「ちゅうちゅう…くか…」

（もう既に自己紹介でもないよね…）

アリスは言いました。

「個性がないのね」

（大有りだー！！！！）

アリスは素通りしました。

三人はアリスを引き留めるべく、息を合わせて叫びます！！

「待つてよおー」

「wait」

「…くか…むにゃ…鮭…」

（ばらばらだ　！！）

鮭って第10話での撫子さんの寝言とかぶってるし…！！）

（…ハムスターしゃべれてるし…）

アリスは素通りします。

アリスが歩いていると、豪華な黒いドレスを纏った赤い髪の女の人と出会いました。

「あなたは誰？」

「私の名はハート。この国の女王よ。」

「ふーん」

アリスは早く家に帰って晩ご飯が食べたかったので、素通りしようと思いました。

「お待ち、小娘！！」

ハートは怒りました。

「ジャック！！小娘を処刑しておしまい！！」

どこからともなくジャックと呼ばれた青年が現れました。

手には大きな鎌を持っています。

さすがにこれにはアリスもビビりました。

「銃刀法違反じゃん！？」

アリスは駆け出しました。

ところで目が覚めました。

姉が心配そうに顔をのぞき込んでいます。

「アリス、大丈夫？」

アリスは起きあがって言いました。

「誰？」

（姉じゃないの！？）

「私の変装を見破るとは…おぬし、なかなかやるな!!」

（姉！？）

「お前は既に死んでいる…」

（アリス！？！？）

「な、なんだってえ！？…う…ぐはあああ!!」

こうして姉は死にました。

アリスは平和を手に入れました。

終わり

「すげえ…」

「桃亜ちゃん、天才よ!!」

「すごいです桃亜さん!!」

大絶賛である。

そのとき信玄がボソリと呟いた。

「台本じゃなくて小説じゃん…」

それを言っちゃあおしまいよ…

次回、ついに本番！？

第16話 文化祭だぜ！～台本編～（後書き）

（補足）あいむれいと I'm late!! 遅刻だ!!

更新遅れてすいません!!

えーっと・・・

すごいことになってしまいました・・・（内容が）

ブログを開設してしまいました。

ヲタクなことが延々と書き綴られております。

作者紹介ページより行くことが可能・・・にします!

まだ繋げてません・・・

今から繋がります。

ってことで。

御意見御感想お待ちしております**

第17話 文化祭だぜ！〜役決め・本番後編〜（前書き）

面倒くさいし、縦にどんどん伸びていくので、レギュラーメンバー（里一・桃亜・千亜里・信玄・委員長・撫子・ザクロ）のキャラ紹介はやめました。

ゲストキャラのみの紹介にしたいと思います。（詳しくはあとがきにて・・・）

東海林理沙

久々登場の美人教師。

若くてきれいだが、生徒をいじめ倒すのが趣味という、どSな人。もったいない・・・

第17話 文化祭だぜ！〜役決め・本番後編〜

こんにちは。

宮間里一です。

・・・戦いが、やってくる。

「それでは演劇の配役を決めたいと思います」

戦争は、ある日のHRに、委員長の一言で始まった。

決めるべき配役は以下の通りだ。

- ・アリス
- ・ウサギっぽいもの
- ・猫
- ・帽子屋
- ・三月うさぎ。
- ・ハムスター
- ・ハートの女王
- ・ジャック
- ・姉
- ・その他（大道具、衣装、などなど・・・）
- ・・・アリスだけは絶対に避けたい・・・！！

「それでは、アリスの役について、立候補はありませんか？」

「はい！はいはい！」

千亜里が手を挙げた。

え、千亜里がするのか？

「宮間君がいいと思います！！」

！！！！！！？

「ちょ、ちよつとまてえええ！！」

「なに？なんか文句でもあるの？」

「大アリだこの野郎！！」

すると、委員長は困惑したような表情で、

「じゃ、じゃあ、賛成の人は拍手！」

パチ、パチ。

よっしゃー！

案外少ないぞ！

っていうか、叩いてんの誰だよ？

「あら、みんな、どうして叩かないのかしら？うふふ」

久々登場東海林先生

！！

「私は見たいわ。里一君の女装。去年は私いなかったものね それに・・・」

それに・・・？

「そんなに嫌がる顔されちゃあ・・・いじめたくなっちゃう」

ドSキタ !!

「柊ちゃん、担任命令よ 彼をアリス役に抜擢します」

イヤアアアアア!!!!?

~~~~~一ヶ月後、本番終了後（の帰り道）~~~~~

「いやあ、超監督桃亜として、里一君の女装はばっちりでしたよ!」

「言わないでくれよ。忘れたいんだ・・・」

もう考えたくもないよ。

「いやあ、でも委員長のハートの女王も似合ってたよね」

大道具の信玄が言った。

そう。

おとなしくって真面目な柊実亜という委員長は、ハートの女王役だったのだ・・・

しかも、

「・・・みありん・・・感情こもりすぎて怖かった・・・」

あの「大好物はホラー映画」なザクロちゃんを半泣きにさせるほど、それは・・・恐ろしかったのだ・・・

「ええっ、そんなことないですよ！」

そして、その演技につられてか、もとの不幸体質のせいかなんぞ練習しても、

「処刑しておしまい！」

と委員長が叫んだところで、セットの一部分がぶっ壊れたり、誰かの衣装が破れたりしたのであった・・・

「本番は何もなくてほんとーによかったわね」

「そういう千亜里だってゴスロリウサミミ似合っていましたわ」

昔からフリフリ・リボン・キュート系が苦手な千亜里には、三月うさぎタンを推薦してやったわ！！（仕返し）

泣きそうになりながら語尾にピョンをつけて話していた。

「撫子ちゃんだって、猫の役がとても・・・」

桃亜は、撫子さんがかんざし基クナイに手をかけたところで口をつぐんだ。

あれこそ銃刀法違反だろ・・・

まあ、そんなことがあったりしたのだが、結局言えることは・・・

「楽しかったな。」



「・・・そうね。楽しかったわ。」

「はい。私もそう思います。」

「委員長がそう言うなら俺も！」

「私も・・・来年は皆と同じクラスに・・・」

「来年はもつとまともな役がやりたいですわ！」

「俺はちゃんと男役で出たい・・・」

「だめよ！里一は次も女の子の役なんだから」

「なんでだよ！」

「私が男の子の役ででてみようかしら」

「委員長がお姫様でー、俺が王子・・・ぐふあ！（鼻血）」

「私が姫・・・？つて、大丈夫ですか！？」

「・・・信玄・・・どんどん変態路線に・・・」

「実亜の鈍感もいいところですよ！」

「信玄、大丈夫かよ！お前も馬鹿だなあ・・・なあ、桃亜？」

そうして気づいた。

桃亜は数メートル離れたところで突っ立っていた。

「おい、桃亜？早く来いよ？」

表情は無く、何かを考えているように桃亜は立っていた。

みんなも振り返って桃亜を見る。

「桃亜！どうしたんだよ！」

「えッ、あッ、何でもないです！」

メイド服をふわっとさせてこちらに走ってくる。

「何でもないことないだろ？」

「そうよ。大丈夫なの？」

「大丈夫ですよ！今日の晩御飯は何かなあって考えてたんです。」

「何だよ、心配せんな。」

「すみません」

桃亜の笑顔が夕日に照らされる。

「ほら、帰るぞ。」

「はい！」

私は、来年も皆といわれるのでしょうか？

## 第17話 文化祭だぜー！役決め・本番後編（後書き）

ちよりーっす

更新が遅れてしまったことを深くお詫びいたします・・・

前書きにも書きましたが、レギュラーメンバーの紹介をやめました。めんどくさいってのも大きな理由ですが、やっぱりキャラが増えてくると長くなってきちゃいますよね？

前書きにも限度がある（たぶん）し、前書きばかり縦にビヨーンってのもどうかと（^ー^；）

二段にしてもいいんですけど、携帯で読める人が読みにくいかなあってというのが一番大きな理由です。

あつ、でもでも、「絶対前書きあった方がいい！」って人がいましたら、ご連絡ください。

復活する・・・かも？

それから、ブログに番外編のせました

どうぞごらんくださいませ

私の大好き女装里一くんが盛りだくさんの、「里一と千亜里の中学版」です！

御意見、ご感想、お待ちしております！

次の更新は・・・二週間後かなあ？

**第18話 がんばれ信玄！？（前書き）**

久々登場のキャラは特にないですねー。

## 第18話　がんばれ信玄！？

ちわーっす！

信一です！

・・・え、誰だって・・・？

・・・信玄ですけど・・・？

あだ名でしか覚えられていない俺って・・・

今回はなぜか俺目線？？

んー、里一になんか悪い気がするぜ。

まあ、気にしない気にしない！

さて、今日から黄金週間だぜ！！

まあ明日は学校あるんだけど。

・・・ひまだなあ・・・

よし！

里一の家に押しかけ・・・

え？？そのネタは前にやったって？  
何の話だよ。

しょうがないなあ・・・じゃあ・・・

買い物にでも行くか！

## スーパーの前

適当にアイスでも買って帰るか。

「おい桃亜！俺は納豆を取ってこいと言ったんだよ。どうして甘納豆を取ってくるんだよおお！！」

「どっちでも一緒じゃないですか！甘いかそうじゃないかって話でしょう！？」

「違うよ馬鹿野郎おお！！」

・・・今日も絶賛新婚さん（？）だな・・・

「よう！なにやってんだよ！」

「あ！信玄！聞いてくれよこいつがさあ・・・」

「違いますよ！これは里一君の心の広さの問題ですよね！？」

・・・なんていうか・・・兄妹げんかみたいだな・・・

「お前こそ何やってんだ信玄。」

「え？俺はアイス買いに・・・」

「あ、さっきそこで実亜ちゃんっぽい人見ましたよ」

！！！！？？？

「どどこでえええッッッッ！！？」

「えッ・・・えーっと・・・魚のどこですか・・・？」

## 魚のどこ

「信玄・・・お前完全に挙動不審だぞ・・・」

「ふっふっふっふ・・・」

俺と信玄と桃亜は魚のどこに来ている。っていつか委員長いた。

・・・信玄のぞっこん委員長ラブにはまいつてしまうよ・・・

・・・あー！俺（里一）目線に戻ってる！

「これは・・・ストーキング行為ですよね？」

「・・・桃亜。今だけは眼をつぶってやってくれ・・・」

さつきから「はあああ・・・委員長は可愛いなあ・・・」とか横から聞こえてくる・・・

あれだな。もう末期症状だな。

「・・・告白しちゃったらしいのに・・・」

ぼそつと桃亜が呟いた。

信玄の顔が信号の赤に染まっていく。おもしろいな。

「そそそそそんな！」

わかりやすいな、こいつ。

「無理無理無理無理！」



「無理じゃないですわ!!」

・・・!!?

「撫子さん!!!!?」

いつの間にまた俺の後ろに・・・

「そうウジウジウジしているのだからダメなのですわ!」

ええ      !?

「ほら!行く!」

撫子さんはいつもの着物姿のまま自分の身長より三十センチは高い  
信玄の首根っこをつかんだ。

「ひッ!?!」

「撫子ちゃんは昔から馬鹿力ですね」

「怪力と言ってちょうだいですわ」

どっちも一緒じゃないっすか?

信玄の首根っこをつかんだ撫子さんはそのまま・・・放り投げた。

どやっ。

委員長の真後ろに着地する信玄・・・哀れ。

いきなりの効果音に驚き、委員長は後ろを向いた。

「あれ？信玄君ですか？」

「わわわわわッ！委員長！」

「どうしたんですか？尻もちなんかついちゃって・・・」

委員長は信玄に手を差し伸べる。

「iiiiiiいや、べべべつになにも・・・」

・・・それから撫子さんがクナイを構えてるのに気付いて、

「ないことはないんだけど・・・」

「？　どうしたんですか？わたし、お肉売り場に行っちゃいますよ？」

「あああああ！もう！」

躍起になったか、信玄！

「委員長、俺と付き合って！！！！」

言った

！！！！！！！！

「いいですよ？お肉売り場でしょ？私もすき焼き肉買って来いって  
言われてるんですよ」

・・・・・・・・・・・・・・・・！！！！！！

「また・・・これは・・・」  
「ベタな・・・勘違いネタですわ・・・」  
「哀れ・・・信玄・・・」

## 里一宅

「おい、信玄。そんなに泣くな。」  
「・・・ぐすん・・・」  
「実亜の天然ボケもぴかーですわ・・・」  
「救いようがないですね」

ぶるるる、ぶるるる」

「里一、電話ですわ。」

「撫子さん出て、お願い」

「しょうがないですわねえ・・・」

がちゃ。

「もしもし、宮間ですわ」

「あ、撫子さんですか？」

「実亜ですの？」

「はい、柊です。」

（・・・これは・・・今は信玄に知らせない方がいいのかもしれないかも  
せんわ・・・）

「どうしましたの？こんな時間に」

「はい、今日なんかスーパーで会った時に信玄君が石化してたなあ  
って思ったんですけど、何があったのかなあ、って思って」

「・・・」

「どうしたんですか？」

「率直に聞きますわ。実亜は信玄のことどう思ってます？」

「どうって・・・普通に好きですよ？」

「は？それはどういう意味で・・・」

『恋愛感情的に。』

「・・・」

『それで、石化してたわけは・・・』

「実亜・・・鈍感もいいところですよ・・・」

『ええ？なにが・・・』

ガチャン。

「撫子さん、誰からだったんですか？」

「いいえ。なんでもないですわ。」

「信玄。」

「・・・なんですか？撫子さん・・・ぐすん」

「がんばりなさい。」

「・・・は？」

「頑張れと言っているのですわ！」

「はははい！」

「私はもう寝ますわ。お休みなさい」

「撫子ちゃんもう寝ちゃうんですか！？まだ8時なのに・・・」

「・・・一人になりたいのですわ」

「「「・・・？」」」

もう・・・呆れてものも言えせんわ。

## 第18話 がんばれ信玄!?(後書き)

ちよりーすッ!

こんばんは!

今回のお話は信玄君がメインでしたね。

・・・撫子さんかも。

二週間前、「次の更新は二週間後」とか言っちゃったせいで、眠たいのをこらえがんばって書いています。

えー、ご意見、ご感想、お待ちしております。

## 第19話 手紙

「桃亜ー、何か手紙来てるぞー」

「ええええ!？」

こんにちは、桃亜です。

私のもとに、彼から手紙がきました。

「・・・驚きすぎじゃねえ？」

「・・・いえ、そんなことは」

うすうす感じてはいたのです。

あの人が電話なんてよこすわけがないのです。

紅田桃亜殿

貴女が借金のために働いているのは存じております。  
ですが、もうそろそろ終わりにしてもいいのではないかと思います。  
借金の方は私から払っておくことにいたします。  
あの男のもとには決して帰らないように。  
いいですね？

桃亜、帰ってきなさい。

母より

「・・・里一君？」

「何だよ」

「里一君にとって、私って何なのでしょうっか」

「は？」

「なんとなく、思っただけですけど」



「それは・・・」

「やっぱりいいです」

「なんじゃそりゃ。」

私は貴女の玩具ではありません。

そしてあの人の玩具でもありません。

お母様、貴女は何をお考えなのですか？

「里一君、折り入ってお話がございます。」

桃亜が俺の前で正座をした。  
メイド服で正座って・・・

「なんだよいきなり・・・お前今日変じゃないか？」

「一緒に来てください、母のところに。」

・・・！？

「・・・お前、それ意味わかって言ってるのか？」

「はい？一緒に、母と戦っていただけますか？」

戦う？

意味が・・・わからないんだけど。

## 第19話 手紙（後書き）

・ 修学旅行とテストが綺麗に重なっちゃって更新遅れちゃいました・  
とりあえず短編をうpします。

なんか・・・シリアスになっちゃいましたね。

がんばります・・・ハイ。

御意見御感想お待ちしております

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8300c/>

---

メイド桃亜の非常識な日常

2010年10月28日08時57分発行